

(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	令和3年度 第2回 東村山市地域公共交通あり方検討会				
開催日時	令和3年 6月11日(金) 午後2時00分～3時30分				
開催場所	本庁舎6階 601会議室				
出席者 及び欠席者	●出席者:(委員) 大沢昌玄会長・小嶋文委員・金田一弘明委員・ 高橋照定委員・越智あや委員 (事務局) 渡部市長・山下まちづくり部長(都市計画担当)・屋代 まちづくり部次長・島崎交通課長・小宮山係長・香西主任・會田事 務員・八千代エンジニアリング(株) 2名 ●欠席者:なし				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場 合はその理由		傍聴者数	4名
会議次第	1. 開会 (1) 市長挨拶 (2) 会長挨拶 2. 議題 (1) 公共交通に関する市民意識調査について (2) 新たな移動手段の検討にあたっての事前整理について 3. 報告 4. 閉会				
問い合わせ先	まちづくり部 交通課 交通企画係 電話番号 042-393-5111 (内線2732) FAX番号 042-393-6846				
会 議 経 過					
1. 開会 資料の確認 ○令和3年度 第2回「東村山市地域公共交通あり方検討会」次第 ○資料1-1 東村山市移動実態や交通手段に関するアンケート調査ご回答のお願い ○資料1-2 東村山市移動実態や交通手段に関するアンケート ○資料1-3 公共交通に関する市民意識調査の実施内容 ○資料2-1 新たな移動手段の素案検討の視点					

- 資料 2-2 新たな移動手段のイメージ
- 資料 3 コミュニティバス「グリーンバス」の利用状況調査 結果速報報告
- 資料 4 コミュニティバス運行実績
- 資料 5 ワクチン接種送迎バス資料

出席状況の確認。東村山市地域公共交通あり方検討会設置規則第 6 条第 2 項により、本会議は成立していることを報告（5 名中 5 名の出席）。事務局が開会を宣言。

(1) 市長挨拶

皆さんこんにちは。東村山市長の渡部でございます。

本日大変お忙しいところ、また緊急事態宣言が解除にならない状況の中で、今年度第 2 回東村山市地域公共交通あり方検討会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

また日頃より当市の公共交通行政等にご協力いただき、心から大変感謝する次第でございます。今日は前回お示しさせていただきました公共交通に関する市民意識調査について、この会議に先立って先般行われました東村山市地域公共交通会議にもお示しをさせていただいて、様々なご意見をいただいたところでございます。それに沿って一定の改善をさせていただいたものを、今日皆様にお示しをさせていただいております。今日ご議論いただき、それに基づいて一定の修正、改善を得た後に、このアンケート調査を実施させていただいて、市民の皆さまがコロナ禍の中で公共交通に対してどんな意識をもっておられるのか、確認をさせていただければと思っております。私どもとしては、気になるのは市民の皆さまの実際のところのニーズと、やはりどこまでご負担いただけるのかということについて今回ご確認をさせていただければと考えておりますので、よろしく申し上げます。

それから、前回に引き続きまして、新たな移動手段の素案検討の視点ということで論点を整理いただき、なんとか今年度中に取りまとめをいただき、来年度何らかの形で実証実験ができればと考えておりますのでよろしくお願いいたします。後程事務局から詳しく説明させていただきますが、ご案内の通り日本全国でコロナワクチンの接種が行われております。当市でも今 65 歳以上の高齢者の優先接種を先月 15 日から始めさせていただいております。その集団接種会場に向かう足の確保という事で今回、国のコロナ関係の交付金を活用させていただいて、市内 8 コースと、東村山駅と接種会場を繋ぐピストン輸送、計 9 路線運行をさせていただいているところでございます。ご利用いただいた方からは大変ご好評をいただいているところでございますが、面白いことにコースによって利用頻度が異なっております。多くの方に乗っていただいているコースとほとんど乗っていただいているコースとありまして、走らせてみないと本当によくわからないと改めて実感をしているところでございまして、今後の議論の参考になればという事で事務局の方からその辺についてもご報告をさせていただきます。

本日も限られた時間でございますけれども、ご審議をいただきますようお願いし

てご挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

(2) 会長挨拶

皆さんこんにちは。本日、令和3年度第2回東村山市地域公共交通あり方検討会でございます。本日、市民意識調査についてまた皆様からご意見をいただければと思います。市長からもお話いただいたところでございますけれども、全国的にワクチン接種が始まってコロナの後の社会がやっと見通せるようになってきたのではと思っております。コロナで社会が止まっているわけではなく、あくまで一時的にちょっと違った方向に向かっただけでございますので、元に戻るような状況がやってくると、その時どうあるべきなのか。やはりその時ではなく、今から準備しておかなければいけないと思っております。ぜひ皆様におかれましても、今も当然大切ですが将来、未来について積極的なご議論をしていただければと思っております。交通でございますが、走らせることが目的ではなくて、先ほどあったようにワクチン会場に行く、その結果精神的にも楽になって帰ってくるということもあるかもしれませんが、やはり手段ですので、走らせることが目的になってしまうとそれは違うことになってしまいますので、新たな公共交通というのは生活の足として、ライフスタイルの足としてどうあるべきなのかという観点からもご検討いただければと思いますので、是非よろしくお願ひいたします。

《会長》

傍聴希望者の確認。

傍聴希望者：4名

傍聴希望者の入室許可について、委員に確認後、傍聴者4名入室。

2. 議題

(1) 公共交通に関する市民意識調査について

《事務局》

【資料1-1、1-2に沿って説明】

- ・ 前回調査概要について、ご協議いただいた。その後、事務局で調査票の案を作成。
- ・ 5月14日に開催された地域公共交通会議で、この調査票の内容について、協議を行った結果、交通会議委員から調査票の内容に対して、多くのご意見をいただいたので、改めて事務局と委託事業者で協議を行い、調査票を修正した。今回の会議資料は、地域公共交通会議の意見を反映した修正後の調査票となっている。
- ・ この調査は、資料1-1にある案内文1ページと、資料1-2にある調査票6ページ、全15問で構成されている。
- ・ この会議では、調査票の内容について、委員の皆さまからご意見をいただき、調査票の確定に向け協議をしていきたいと考えている。
- ・ 調査実施の時期は、7月上旬に発送、7月下旬を期限として回答をお願いする予定で進めていく。
- ・ 今回、委員の皆さまに、特に確認をしていただきたい点として、この調査を通じ

て、市民ニーズを的確に捉えることができるか、今後の新たな移動手段の検討材料となるか、回答者の立場で回答するにあたり分かりにくい項目はないかなど、忌憚ないご意見をいただければと考えている。

《八千代エンジニアリング（株）》

【資料1－3について説明】

- ・実施内容は変更なし。調査項目について変更有り。赤字が前回の検討会から変更した点。
- ・日常の移動状況の把握項目に休日の用事を追加。
- ・コロナ前後での移動頻度の変化の質問をそれぞれの項目で聞くように変更。
- ・公共交通の利用状況に自家用車と自転車を追加。
- ・満足度、不安について、移動目的別の満足度に変更。公共交通とマイカーの使い分けの質問を追加。
- ・今後必要な対応の項目を追加。路線バスやグリーンバス、交通手段全般がより便利になるために必要なことの質問を追加。
- ・新たな交通手段についての項目を追加。

【資料1－2について説明】

- ・設問1では個人の属性から公共交通を利用しているかを把握。家族構成を踏まえて移動手段があるかを把握。
- ・設問2で目的別の移動状況の把握。それぞれの目的別に移動頻度、交通手段、行先、時間帯、コロナ禍の移動の変化を把握。
- ・設問3で交通手段それぞれの移動頻度の把握。7月に緊急事態宣言が明けると想定して、緊急事態宣言が終わった後の公共交通の利用状況を把握したいと考えている。
- ・設問4の問7で交通手段の満足度、将来の不安があるかどうかを確認。
- ・問8、9で現在の生活で公共交通機関が必要であるか、将来の望ましい交通手段の利用について把握。
- ・設問5で今後、ご自身の普段の外出・移動がより便利になるために路線バス、グリーンバス、交通手段全般のそれぞれに必要なことを最大2つ選択。新しい交通手段が、イメージできるように乗合タクシーや小型車両等の説明書きを加えている。
- ・問11では、問10で選択した内容が実現された場合に利用したいかの設問を設けた。
- ・設問6では新しい交通手段があった場合に今の移動手段から新しい移動手段を利用したいかどうかを把握。表を作成して、今の移動内容と現在の料金、新しい交通手段の利用動向と利用する場合の料金の上限を聞き、どういった形で移動していて、どういうところで新しい移動手段を使いたいかを把握する。
- ・設問7ではこれからの交通手段のあり方の検討に向けて、市民の皆様の協力や支援が必要と考えているが、今後交通手段を検討していくことについてどう思うか、また検討会等への参加の意向を把握する。
- ・資料1－1にQRコードを載せて、インターネットからも回答できるように準備している。

《会長》

・市民の皆様の移動の実態と移動手段のニーズを把握して次の政策に展開しているかということであったかと思う。目的に即してアンケートを取ることになるが、アンケートの取り方について不備、不明点、足した方がよい点、削ったほうがよい点といったご意見を本日いただいて7月の本実施に向かえればと考えている。調査内容に関するご意見等を伺いたい。

《委員》

【設問1について】

- ・15歳以上の方をお願いするので、年代の19歳以下のところに15歳からと加えたらどうか。
- ・職業の高校生以下は15歳に中学生も含まれるので、中・高校生以下、もしくは中学生、高校生を分けたほうが良い気がする。
- ・家族構成の親子、3世代は分かりやすい書き方があるのではないか。
- ・自動車免許の保有状況の2と3をひっくり返した方が「自動車免許を返納した」の回答漏れがないのではないか。
- ・問9は、答える方には意図が分かりづらい。個人の事を聞かれているのか、全体の事を聞かれているのか分かりづらい。
- ・問10で選択肢を2つまでならば、選択肢の右側に回答欄を2つ設ける方が答える人が分かりやすいのではないか。
- ・問13の「地域の皆様の理解や協力、支援が必要だと考えています。」と言われても何のことを言われているのか、支援、協力はなんだろうかと思ってしまう。具体的に問14のことであれば問13と問14を反対にすればいいのではないか。
- ・問14のことだけ聞きたいのであれば、もう少し具体的に書いた方がよいのではないか。

《八千代エンジニアリング》

- ・属性については修正する。
- ・問9は社会全体というよりも個人の行動としてお聞きしていたが分かりづらいというご指摘なので検討したい。
- ・順番的には問13の内容があって、問14で具体的に検討会に参加したり、積極的に利用したりするという流れで聞くような形を想定している。
- ・問13は交通手段の維持を行政や交通事業者だけに委ねるのではなく、市民の方も主体性を持ってやるというようなことをお聞きしたい趣旨がある。地域公共交通会議の交通会議委員から公共交通はそもそも提供されるのではなく、市民が主体となってやるという事を聞くべきではないかというご意見があったので設計した。説明の仕方を検討したいと考えている。

《会長》

- ・理解できない質問があると答えたくなくなってしまう。
- ・意図が伝わらない質問項目は、市は何をしたいのかと思ってしまう、交通施策の展開に対して間違ったメッセージに繋がってしまう恐れがある。
- ・問13については、市民の皆様はどうして欲しいか分かりづらい。
- ・運行することが目的になってしまうと持続できない。どこかに行くことが目的で、

そのための手段なので目的がなければ移動せず交通手段は使わない。そのあたりをよく考えて設計しないとイケない。もう少し切り込んだ方が良い。

《委員》

【資料1-2について】

- ・問12の料金については現状ある料金でしか回答できない。高くてよいのか、安いほうがよいのか判断ができない。
- ・問15に自由意見を書く欄があるが何を書いてよいのかわからない。具体的に求めたい意見を指示した方が良い。
- ・全体的にどれかであってほしいという答え方になっている。それ以外の答えもあるはずだが選択できない。選択肢以外の答えもあるのではないか。
- ・少数派の意見を聞ける項目があって良いのではないか。
- ・新しい移動手段を必要としていない市民、無理だと感じている市民もいるかもしれない。そういった意見があるならば、なぜ必要ないのか、なぜ無理だと感じているのかを聞く項目があった方が良いのではないか。
- ・市民の意見が反映できるようなアンケートにした方が良い。

《事務局》

- ・参考となる料金を書かせていただく。
- ・各設問の最後に、「ご意見があれば最後の自由意見で記載してください」等、今ご指摘いただいたご意見を反映できるよう修正したい。

《委員》

- ・資料1-1についているQRコードは郵送したものについてきて、紙でもインターネットでも回答できるということか。またはバスに乗せる等配布して広く回答をいただくためか。

《事務局》

- ・郵送のアンケート調査につけるものである。郵送かインターネットか回答を選択できる。

《委員》

- ・若年層はQRコードのほうが回答しやすいが、ところどころに記入しなければいけないところがある。インターネットのアンケート文字を入力してくれるか疑問である。
- ・インターネットでの回答は、質問をとばすとスクロールしなければいけない面倒があるので質問をまとめた方が良く思う。
- ・問13の買い物の時間帯は買い物の頻度が多い方ほど回答しにくい。よく行く時間帯を選択する等工夫していただきたい。
- ・新しい交通手段が答えづらい。
- ・国立市のアンケートが答えやすいと感じた。デマンド交通について利用してみたいか、利用する際に不安なところは何かの問がある。料金も具体的に提示されているので、デマンド交通を利用するイメージができる。
- ・東村山市のアンケートはたくさん聞かれているが、何を聞いているのかが分かりづらい。

・具体的に聞きたいことを聞いてくれた方が明確に回答できる。

《会長》

・インターネットでの回答は入り口が重要であるので回答しやすい設計にした方がよい。

・新しい交通手段はスマートシティのような近未来のイメージもあるので、東村山市では導入していないが近隣市では導入している交通手段のことをこのアンケートでは新しい移動手段と定義している等、用語からイメージする内容について統一的に整理していただきたい。

《委員》

・新しい移動手段はグリーンバス以外の移動手段のほうが具体的ではないか。

・現状のグリーンバスにかわる移動手段として具体例を示すことができるのではないか。

・新しいをあえて使わないほうがわかりやすいのではないか。

・長い説明になるかもしれないが、分かりやすいように書いた方がよいのではないか。

《事務局》

・資料1-1で「現状のグリーンバスでは解決できなかった課題を解決するために」でご案内はさせていただいているが、読まれない方もいらっしゃるので新たな移動手段、新しい移動手段の文言については再度検討させていただきたい。

《会長》

・グリーンバスについては今後も維持するが、グリーンバスでは解決できない市民の皆様の移動手段を今後どうするのか。これが、新しい交通手段であるということの説明の方がよい。資料1-1には書いてあるが、丁寧に説明した方がよいので検討していただきたい。資料1-1の「グリーンバスの運行は引き続き維持することを基本とし、新たな交通手段の検討を進める予定です。」の文章を共通の理解とする。共通のイメージが持てるような説明をお願いしたい。

・問3の買い物の頻度に「行っていません」、「0」の回答をいれてはどうか。

《八千代エンジニアリング》

・「0」については、該当しない人は回答をしないようになっている。

《会長》

・買い物に行っていない人、すなわち各設問において行っていない「0」の理由を知りたい。交通手段以外で行っていない理由があるならば、交通ではない違った支援の仕方があるのではないか。

・交通手段ができたから外出することができるようになったなど、生活の幸福度が上がった等の間接効果が必要ではないか。幸福度が上がるためにも交通手段が必要であるというような質問があっても良いと思う。

《八千代エンジニアリング》

・設問4に交通手段の満足度、不安の有無をきくところがあるが、「0」の理由を聞ける質問を検討する。

《委員》

- ・調査内容は専門家が作ったものなので、私からは特に申し上げることはない。
- ・非常に整理されていると思う。
- ・配布数の割り当てをどうするのか。

《事務局》

・配布数はどなたかに割り当ててるのではなく、こちらで無作為に選ばせていただき郵送する。

《会長》

・事務局と八千代エンジニアリングで本日のご意見、修正案を踏まえてアンケート調査票を修正いただき、一度私がチェックをさせていただく。その後委員の皆様にも最終チェックをいただき、気になる点があっても体制で問題無ければご承認いただき、納得いかない点だけお寄せいただきたい。

(2) 新たな移動手段の素案検討の視点について

《事務局》

【資料2-1について】

- ・先ほどの議題であった基礎調査を実施し、集計・分析が終了すると、本格的な新たな移動手段の検討に進むことになる。本格的な検討が開始される前に、ここで一旦、新たな移動手段の検討に向けての視点等について整理したいと考えている。
- ・公共交通施策を通じてめざす姿・方針についてである。まちづくりの上位計画である、第5次総合計画には「便利・快適な交通手段によって、生活に必要な移動ができ、いきいきと暮らしている」と記載されている。
- ・都市計画マスタープランには、「公共交通機関の改善に関する基本的な方針を明らかにし、安全・安心で快適に移動できるまちを目指します」と記載されている。
- ・今後の検討において、新たな移動手段を運行させることが目的ではなく、公共交通が充実した結果、街がどのようなようになるのか、このめざす姿や方針を念頭に置いてご議論いただきたいと考えている。
- ・市内における現状の課題だが、まずは道路状況等によりコミュニティバスを運行することが難しい中、解消できない公共交通空白地域が市内に点在していることが挙げられる。
- ・近年、高齢化率が徐々に上がる中、バス停までの移動も難しくなっているというお声をいただいている。
- ・市としては、まずは公共交通空白地域を解消することを最優先として考えているので、皆さまには、この課題解決に向けた協議をお願いしたいと考えている。
- ・市民の移動の実態がどのようなになっているか、現状の公共交通や新たな移動手段に対しどのような要望があるのかなど、住民ニーズについては、基礎調査を実施し、その実態を明らかにする予定である。
- ・一方で、費用負担の課題は切り離せない課題としてあるので、持続可能性ということがキーワードとなる。この会議でも以前お話があったが、利用者がいなければ公共交通は維持することはできない。運賃、つまり負担の公平性について、コミュニティバスの利用料金は民間路線バスの初乗り運賃と同額の180円と設定されているが、タクシーは直接目的地まで時間を気にすることなく移動できるため、初乗り運賃500円とコミュニティバス運賃を比べると、高い運賃設定になっている。新たな移動手段がどのようなものになるか、現時点ではわかっていないが、運賃設定に関しては、このようなことも考慮しなければならない。

・公費としては、受益者負担と税負担の観点から、公共交通への市の負担は、市長からも以前お話があったように、コミュニティバスだけでも年間6,000万円程度、コロナ禍の状況においては、1億円程度経費がかかっており、市として他の分野にも予算を配分することから、公共交通にかけられる予算には、限りがある。そのような中、コミュニティバスとしては、運行継続要件として収支率40%以上という一定のルールを設定し、運行をしている状況である。

・今後は、新たな生活様式が定着することで必ずしも移動を必要としない生活に移行している方も多くいることから、従前通りの乗車数に戻るとは限らない。

・新たな移動手段が導入されることにより、更に経費がかかるのと同時に、コミュニティバスを利用していた方も、新たな移動手段を利用するなど、利用客の分散がされると、運賃収入が減少することにより、赤字が増え、補助金の額も増えることになる。このようにマイナス面も考慮していかなければならないが、いずれにしても、会長からも以前お話があったが、地域全体で公共交通を盛り上げていく必要がある。

・一人でも多くの方が公共交通に関心を持ち、公共交通を利用していただけるよう、住民が主体となって検討を進めて行かなければならない。

・これまで説明した背景を整理すると、新たな移動手段の検討の視点として、①既存公共交通（鉄道、路線バス、コミュニティバス、タクシー）を踏まえた施策、②まちづくり、目的の施設から見た交通（土地利用）、③利用対象者、④対象地域、⑤商業施設、病院等の送迎バスの状況、の5つにまとめさせていただいた。今後の検討においては、この5つの視点を委員の皆さまと共有しながら検討を進めていきたいと思う。

・素案策定に向けて整理すべき項目、つまり決定しなければならない項目は、記載のとおり運行目的や運行方法、利用できる方、利用方法などの運行にかかる詳細を決定しなければならない。これらは、次年度の実験運行の実施において、地域公共交通会議で合意を得る必要がある項目となっている。最終的にどのようなことを決めて行かなければならないかを事前に把握して今後の議論につなげていければと考えている。

【資料2-2について説明】

・新たな移動手段と言葉でお伝えしていても、どのようなものかイメージしづらい部分もあるので、当市でこれを導入するというのではないが、全国の事例ではどのようなものがあるのかを表したものとなる。各地で行われている事例を、そのまま当市に導入しても、うまくいくとは限らない。地域ごとの条件が異なるので、当市の人口や面積、高齢化率、既存の交通手段などを考慮し、このような事例を参考にしながら、当市の実情に即した移動手段を検討していくことになる。

・今回はあくまでもイメージということでご認識いただけたらと思う。

《会長》

・今日結論を出すのではなく移動に対してどのような視点が必要なのか、それぞれ皆様の視点をお寄せいただき、自由な発言をお願いしたい。

《委員》

・資料2-1⑤の商業施設は、現状大型店舗が多い。商店街の入り口と出口にバス停があって買い物ができるような商店街でなければ交通と結びつけるのは難しいのではないかと。商店街、商工会との協力体制がないと公共交通を検討するのにバランスが悪い検討項目になる。

《委員》

・ワクチン接種送迎バスの運行でバスを目にする機会が増え、グリーンバスにも愛

着を持ってくれたらと思う。

- ・ワクチン接種送迎バスに乗車した方が、バスの便利さやバス停の状況が分かり、バスに対する意識が変わりニーズを広げられたら良いと思う。
- ・ワクチン接種送迎バス運行期間内に、バスの車内にアンケートのQRコードを掲げてはどうか。普段取れない層からの回答もとれる。回答率もあがるのではないか。
- ・公共交通マップをバスに乗せておくのはどうか。

《委員》

- ・個人への親切なアプローチとして、モビリティマネジメントの取り組みについてもこの中に入れていただきたい。
- ・資料2-2の⑦その他のモビリティのシェアサイクルなどの運営方法が市からの委託運行になっているが、最近は民間が主体で市が無料で土地を貸すなどの協力方法もあるのでご検討いただければと思う。

《事務局》

- ・⑤は商業施設や病院など送迎バスの状況を把握して利用できるものを今後の検討に活かしていきたいと考えている。土地利用は視点として必要と考えている。
- ・ワクチン接種送迎バスの乗り場にも公共交通マップを配布したが、モビリティマネジメントを市でも改めて検討していきたい。
- ・シェアサイクルは記載が漏れていて申し訳ない。検討させていただき内容を精査して今後資料を提供したい。

《会長》

- ・⑤は病院などの送迎バスを送迎していない時間に兼用できないかということか。保育園や幼稚園、企業バスなども含めて検討するという事ならば、詳しく書いてほしい。
- ・交通手段の特性について、トリップ距離と輸送密度のような2軸のモデルを作成して、求められる交通手段について検討することが必要ではないか。
- ・今までは目的地への移動手段としての公共交通が多かったが、バス待ち環境等、市民の皆様への視点を考えた移動手段としてのあり方を考えるべきではないか。

《会長》

事務局より「報告事項」をお願いしたい。

3. 報告事項

《事務局》

- ・事務局より3点ご報告。

【資料3 コミュニティバス利用状況調査について】

・6月4日(木)から6月6日(日)までの4日間でコミュニティバス利用状況調査を実施。調査方法は、あり方検討会でもご説明した通り、全路線を対象にすべての便に調査員が乗車し、ビンゴカードを使用した調査を実施。調査結果は、現在取りまとめの最中だが、延べ3,095名から回答をいただくことができた。詳細な取りまとめに関しては、改めてご報告するが、結果速報ということで、お伝えをさせていただく。資料にあるが、4日間実施させていただいて、データ入力、集計、分析をさせていただいて詳細は10月頃の会議の時にお伝えできればと思うので、資料をご確認いただければと思う。

【資料4 コミュニティバスの運行実績について】

・4月5月は、緊急事態宣言下ということもあり、昨年度の緊急事態宣言下と比べると、乗車数は増加しているが、平成31年4月、令和元年5月と比べると、7割程度の乗車数となっている。今後も感染状況やコミュニティバスの利用実績を踏ま

えながら、今後の運行について地域公共交通会議で協議してまいりたいと考えている。

【資料5 ワクチン接種送迎バスの運行結果について】

・冒頭市長からもご説明があったと思うが、65歳以上の方へワクチンの接種券を送付した際に同封されているチラシを資料として準備させていただいた。市では5月から開始したワクチン接種に伴い、高齢者の接種期間中、東村山駅から集団接種会場と、各地域から集団接種会場をつなぐ、無料送迎バス、全9コースを運行している。乗車実績としては、6月11日現在、運行日数18日、延べ約4,300人となっており、1日平均では、市役所の接種の場合、1日約200人、スポーツセンターでの接種の場合、1日約400人がご利用いただいている。コース別で見ると、栄・萩山コースの利用が最も多く、一方で、野口・美住コースの利用が少ないという結果が出ている。こちらの数字についても今後の検討に役立てていきたいと考えている。

《会長》

今の事務局の報告について、質問等あればお願いしたい。

その他、事務局から何かあるか。

《事務局》

次回の会議日程について、現状では次回の会議は、秋頃に開催したいと考えている。今回実施する公共交通に関する市民意識調査の集計・分析が終了する目処がたち次第、改めて皆さまの日程調査をさせていただければと考えている。

4. 閉会